平成28年度　佐賀県立唐津工業高等学校　学校評価結果

１　学校教育目標	２　本年度の重点目標
２１世紀を担う心身ともに健康でたくましく、知徳体の調和のとれた、視野の広い、工業や社会の発展に貢献できる人材を育成する。 （学校経営ビジョン） 「ものづくりによる人づくり」「部活動による人づくり」を柱として生徒が入学して良かった、保護者が入学させて良かったと思う学校づくり	① いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応 ② ものづくりによる「地域連携・貢献」の充実 ③ 部活動の入部率・定着率の向上と活動の活性化 ④ 規範意識の高揚と基本的生活習慣の定着 ⑤ 全生徒の進路実現のための進路指導の充実 ⑥ 清掃活動の充実と校内美化の向上 ⑦ 資格取得やコンテストへの積極的な挑戦 ⑧ ICT利活用教育の推進

達成度　A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

３　目標・計画

①地域・保護者への情報発信、学校PRの充実

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	学校経営ビジョン及び重点目標の周知とその達成度	保護者や生徒の重点目標の周知度を80%以上にする。 学校経営ビジョン及び重点目標については「学校はよく努力している」と評価する保護者や生徒の割合を80%以上に	・保護者に対しては、PTA総会、地区保護者会、唐工ニュースで周知を図る。 ・重点目標を中央廊下に掲示したり、全校集会で説明して周知を図る。 ・学校経営ビジョン、重点目標の達成に向けて一つ一つの取り組みを徹底する。	B	学校方針や重点目標については、PTA役員会や総会等で周知を図っている。また、学校ホームページにも学校評価計画を掲載し、周知の徹底に努めた。多くの目に触れるよう準備を整えているので、ある程度の周知ができたと感じる。しかし、関心の程度によって温度差があるため、一部には徹底できていない部分もあると感じている	欠席者保護者会を含め、PTA総会の参加率の向上を図ることが重要であると考える。ホームページ上にも掲載しているが、インターネット環境が全ての家庭にあるわけではないので、パソコンでの閲覧には限界を感じる。スマートフォン等でも学校HPが閲覧できるがパソコン版をそのまま、閲覧するには問題があるようである。今後検討したい。
		地域に信頼される学校づくりに向けた情報公開	高校入試志願率の向上(一般入試で定員の1．2倍以上を確保)	・唐工ニュースやメディアなどを通じて、活躍する生徒の情報を地域へ積極的に発信する。 ・体験入学、中学校ごとに行われる高校説明会等では学校PR用の動画を用い、生徒に分かりやすい説明を行う。	B	生徒たちの活躍状況を唐工ニュースや数多くのメディアを通じて情報発信し、本校教育活動を十分PRすることができた。また、地域の催し物で小学生対象に「ものづくり教室」を実施するなど、地域との連携も十分にできた。 生徒の登下校時のマナー等でお叱りを受けることもあったが、一方では、体育大会の取組や登下校時の生徒の挨拶がよいとお褒めの言葉をいただく事も多くあり、体験入学や特色選抜入試では多くの参加者、志願者があった。	工業科各科が特色あるテーマに取り組み、その成果をしっかりとPRし、工業高校の魅力を伝えていき、学校活性化、入学志願者の増加に繋げていきたい。地域貢献や地域と連携した取組のテーマは、どの科にもあるのですべての科でしっかり取り組んでいきたい。 一方、部活動の活躍や資格取得の実績も学校PRには効果的なので、工業科職員だけでなく、全職員がその意識を持ち、取り組んでいく必要がある。

②いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめ問題の防止と早期発見	いじめ問題の早期発見のためのアンケートを2ヶ月に1回実施する いじめ問題が発生しないための環境づくりと啓発	・いじめアンケートを2ヶ月に1回実施し、その後生徒全員に対して面談を実施し、問題の早期発見、防止につなげる。 ・いじめ問題等が発生しないよう、昼休みの校内巡視、ホームルームを複数の担任で実施するなど、発生しにくい環境づくりに努める。 ・ヒューマントレーニングや全校集会などで、他人を思いやる心情、自他の人権を尊重する態度を育む。	A	今年度中のいじめの認知件数は「零」であった。ふだんからの声かけや観察を徹底したことにより、いじめ防止に繋がった。集会や生徒指導通信などをとおし、道徳心の涵養を図った。	職員間の連携のさらなる向上のために、校務分掌間、学年間、クラス間、科間の情報交換がしやすい仕組み作りを目指す。

③生徒は授業を改善、教師は授業を充実

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	授業態度の改善	授業中の態度を成績の一部として評価する。好ましい授業の雰囲気を作り、全員が真剣な態度で受けるよう指導する。	・「学習状況調査記入簿」を活用し、効果的に運営できるようにする。 ・各授業中の生徒の学習状況で、指導が必要であれば厳しく対処しその都度、改善を促していく。 ・学習評価において、授業態度を大幅に重視（35%）することを周知徹底し、生徒の自覚を促しながら改善を図る。	B	「学習状況記入簿」の活用は、学年により使用にばらつきがあったが、昨年度に比べ、生徒の学習態度がよい方向へと変わってきたためか入力が全体的に少なくなっていた。良好な生徒ばかりではないが、学習評価で授業態度を重視することが生徒たちに浸透し、生徒自身が自覚し学習に取り組んでいるようである。	ほとんどの生徒が真面目に取り組んでいるが、来年度も「学習状況記入簿」を活用し、生徒指導や保護者面談等の資料として活用できるように取り組んでいきたい。授業態度については、良好な生徒が多くなってきた。これまで数年、授業態度を大幅に重視してきたが見直しを図り、生徒の学力向上に力を入れていきたい。

④規範意識の高揚、服装・頭髪の端正さの向上

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	頭髪・服装指導の改善	登下校はもとより、普段の身だしなみに対する意識を向上させ、さらに頭髪・服装検査合格者を昨年度より増加させる。	・３人担任制を有効に運用することにより、改善を図る。 ・頭髪・服装検査の強化及び再登校指導を実施する。 ・普段の着こなしに対する新たな指導方法を確立する。	B	男子についてはかなり改善した。 女子の指導が不徹底であった。	女子への指導マニュアルの確立。
	●心の教育	道徳教育の推進	規範意識、公共モラル・マナー、自他の生命尊重など、人格形成の一助となることを目指す。	・年13回、10分間の「ヒューマントレーニング」を実施する。 ・学期に1回、テーマを生徒に設定させる。 ・予め設定したテーマに対して生徒が感じたままを意見として書き、回収した後、担任・教務等で検証し、しっかりした意見等については中央廊下や教室に掲示する。 ・心に響く、心を揺さぶる刺激を与えるような意見は学校HPに掲載するなど、保護者にも子どもたちが考えていること紹介する。	B	本校独自の取組であるヒューマントレーニングは生徒に定着してきた。これまでは、ある現場を見ての感想などが中心であったが、SNSの利用に関するものやオリンピックに関する話題など昨今の社会的な背景を踏まえ、マナーやルールについて考えさせるような質問になってきている。また、代表的な意見はHRなどを通して紹介され、他者の意見に触れることも良い刺激となっている。今年度も保護者等への紹介ができなかったので、次年度は学校HPに掲載するなどの新たな取り組みが必要である。	生徒の規範意識や道徳的心は少しずつ向上しているように思える。また、生徒の優しい気持ちが大きくなっているようである。来年度も今年度と同様に「ヒューマントレーニング」を年12回程度計画していく。さらに生徒へのフィードバックを検討し、日頃の授業やHR、部活動など色々な場面で生かせるような取り組みを行う。合わせて学校HPへの掲載や保護者への紹介を行う。
		ボランティア活動への積極的参加	生徒会主催の校内ボランティア活動への参加、及び各種外部団体主催のボランティアへの参加の合計数100名を目指す。	・生徒会役員の生徒に校内の小さなボランティア（あいさつ運動や清掃ボランティア）を企画させ、短時間で少人数のスマートな奉仕活動を数多く行い、学校全体に潤いを与えていくようにする。 ・学校周辺での清掃活動を実施し、唐津特別支援学校行事への参加、社会福祉協議会等主催のボランティア活動に自主参加することを促す。 ・ボランティア参加実績は、その状況に応じて、個人の進路実現に大きく寄与することがあってしかるべきであるので、推薦会議等の場でこれまで以上にアピール要素にしていくことを生徒へアナウンスしていく。	B	朝の挨拶運動では、延べ100を超える「あいさつチーム」が参加し、また、校外でのボランティア活動への参加も昨年度より多かった。しかし、校外ボランティアについては特定の生徒が複数回参加しているもので、今後は、より多くの生徒が参加するように工夫する必要がある。	生徒会総務役員の意識や取り組む姿勢は、年々、向上しているので、生徒会による校内外の様々なボランティア活動の紹介を工夫して行い、積極的な参加を呼びかける。

⑤進路指導の充実、全生徒の進路実現

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	進路の実現	基礎学力・コミュニケーション能力を向上させ、進路実現100%を達成する。また、適切な進路提供情報を提出し、生徒が主体的に進路を選択できるようにする。	・授業を大切にし、家庭学習の習慣をつけさせる。生徒の就職・進学の希望の実現を目指して基礎学力の向上に努める。 ・必要な情報を適切に提供し、適切な進路相談を施して、生徒の主体的な進路決定の手助けとする。 ・　会社訪問を行い、求人会社の情報を生徒に提供する。 ・　進学希望者については、1年時から進学意志の確認と高揚に努め、個別指導を行う。 ・　教科・学年・部活動顧問との連携を密にした進路指導を行う。 ・面接指導・作文指導を計画し全教員と協力して行う。 ・進路指導資料を精選し、活用の充実をはかる。	A	目標である進路決定率100%は本年度もほぼ達成できた。1回目の就職試験での内定率は92%と昨年から5．2ポイント上昇した。また、県内企業紹介会を2・3年生に実施し、人材流出に一定の歯止めをかけた。地元公務員にも複数の合格者を出した。 進学については大学に5名、専門学校に11名と受験者全員合格を果たした。 以上のことは、早い段階からの進路意識の啓発が功を奏したものと思われる。また、例年、生徒・保護者に情報提供を心がけ、効果的に伝達できたと判断できる。 今後も、1年時からの進路意識の高揚に努めるとともに、コミュニケーション不足の解消、学力の向上が課題である。	職業意識の育成を主眼に置き各校務分掌との連協を強化する。 社会人外部講師、インターンシップ、工場見学、応募前職場見学、長期インターンシップ等を各校務分掌と協力して実施し、各学年における進路によるLHRを充実させる。 外部就職ガイダンス等に2・3年をそれぞれ参加させ、進路指導の徹底を図る。 進路希望調査を1年生にも実施し、2年生・3年生については複数回実施する。夏季休業中の補習についてはSPIを中心に、作文指導についても指導する。

⑥安全教育の推進と校内美化

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○環境整備	校内の美化、環境問題に対する意識の啓発。	職員・生徒が日頃からきれいな環境で過ごしたいと思う気持ちを高め、校内が美しくなるようにする。ゴミの減量化と資源物（紙類）の回収を実施する。	・教室の校内美化点検を毎週木曜日に行い、結果を学年主任と担任へ報告し，以降のクラスでの指導に活用する。 ・ゴミ分別を行うとともに資源物(紙類)を回収し、環境に配慮する。 ・環境問題についてHR活動を通して生徒の意識の啓発をはかる。	A	生徒保健委員による校内美化点検を毎週木曜日を基準に実施し，担任の指導材料となって，教室棟の環境改善に役立った。以前に比べてゴミの量も減少した。	職員・生徒の掃除への取り組みは毎年向上している。今後も継続できるよう，職員・生徒の意識啓蒙をはかる。教室環境の美化については，今後も美化点検を実施する。
	○安全教育	施設の安全点検と実習等の安全作業	安全点検を実施し、必要な対策を行う。 実習棟の整理・整頓と安全な実習運営	・毎月、各点検箇所の責任者が安全点検を実施し、報告する。 ・実習や課題研究では安全作業と適切な服装での作業を徹底する。	B	安全点検を毎月実施し，事務部の協力により，随時必要な対策を行うことができた。実習を伴う授業においては，授業者が必要な安全対策をとった。	校内の施設面では，安全点検だけに限らず，不具合が発生したときにできるだけ速く対応していくことが重要である。そのために，情報の吸い上げが早くできるよう職員への協力を仰いでいきたい。

⑦資格取得への意欲の醸成と実績の向上

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	基礎学力の定着と夢の実現	学力が低い生徒には、確かな基礎学力を身につけさせる。また、出口である3年生の就職試験は1回目の試験で希望通りの合格が出来るようにする。	・「数学会」は、今年度も数学の基礎学力が低い生徒を抽出し、全職員で毎日3名ずつの輪番にて1学期間中補習指導を行い、分かる授業へ結びつける。 ・進路指導部とも連携し、特に3年生については昨年度の指導形態を踏まえ、基礎学力をより一層定着させ、就職試験は一次試験で合格できるよう全職員で取り組むよう計画する。	B	基礎学力の向上の為に行っている「数学会」は、今年度も期間中休む生徒もほとんど無く、達成感も得られ成果が出たように思う。該当生徒のその後の数学の成績を見ると、効果が現れており、数学の小テストでは生徒全体の点数が上がってきている。また、例年少しずつではあるが参加者が減っていることを考えると、生徒の意識も変わってきているように感じる。	今後も達成感を得られ、数学の力がついたことが実感できるように問題作成を考えていきたい。また、生徒がその他の教科にも興味を関心を持って学習に取り組めるようにする事も重要だ。現在一部の生徒に対して「数学会」を行っているが、1年生の全生徒に放課後、学習者用PCを使い数学以外の教科も含め、短時間で継続的に行えるような取り組みを検討したい。
		資格取得の推進	資格試験の合格率を前年度より10%アップする。	・「資格試験ハンドブック」を有効に活用し、学年で最低2つ以上の資格を取得させる。 ・資格取得の意義を理解させ、資格取得状況を掲示するなどして、意識の向上を図る。	B	「資格試験ハンドブック」は生徒や保護者にとって有効な情報源になっている。そのため、受験者は例年同様に多かった。一部の資格試験では、多くの合格者を出した。機械科では、今年度初めてテクニカルイラストレーションCADを受験し3名全員合格させることができた。ジュニアマイスター認定総数は昨年より増加した。	資格取得に対する意識の高揚は、進路指導の面からも重要であるが、合格率を上げることは、生徒のさらなる取り組みの改善、経済的な負担を減少させることができ重要な課題である。 奨励する資格の変更、指導方法の工夫など、指導する側の体制の見直しも必要である。

⑧部活動の活性化、ものづくりによる「地域連携・貢献」

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○特別活動	部活動の活性化	部活動への加入を奨励する。加入率を前年度より増加させ、活動の活性化を図る。	・入学式、各集会などで部活動の教育的効果、人格形成に対する効果などを説明し入部を督励し、1年生の入部率を向上させる。 ・とくに1年生については3日間の体験入部、および1学期間の全員加入を経て、部活動の魅力を味あわせ、充実した学校生活に役立たせる。 ・部活動生の活動してきた実績は、その状況に応じて、個人の進路実現に大きく寄与することがあってしかるべきであるので、推薦会議等の場でこれまで以上にアピール要素にしていくことを生徒へアナウンスしていく。	A	様々な取り組みにより、加入率は増加した。1年生の2学期以降の定着率についても大幅に向上した。来年度は、さらに高い目標を立てて全体のレベルアップを図ることが期待できる。	・ここ数年で、かなりの成果が見られており、継続して取り組んでいきたい。 ・次のステップに進むために、職員研修等で全職員の部活動活性化に対する共通理解を深める必要がある。
教育活動	○地域連携・貢献	ものづくりによる「地域連携・貢献」	「ものづくり」をとおして地域に貢献する。	・地域イベントに参加し、地域に貢献できる製作テーマを見つける。 ・地域から依頼された物を製作する。 ・地元のイベントでものづくり体験教室を開きものづくりの楽しさをPRする。	A	建築科では、生徒の出身中学校へベンチの寄贈を行っている。鬼塚ふれあいまつり、北波多ふれあいフェスタでは、全科とも製作体験教室を行った。このような取組は、地域に浸透し、工業高校の存在感を示している。	学校PRや生徒の意欲の醸成の面からも、今年度同様、ものづくりを活かした地域貢献活動には今後も積極的に取り組んでいきたい。 地域との連携・地域への貢献は、専門高校として、学校活性化の中心的な取組である。このような取組が地域や中学生の保護者に理解され、入学希望者の増加に繋げていきたい。

⑨ICT利活用教育の推進

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	タブレット・電子黒板を利用した授業の推進	生徒が、わかりやすいと思う授業を目指す。 電子黒板・学習用PCを適宜使用して授業内容を工夫する。	・SKYMENUの使用法・SEI-Netのアンケート機能についての研修を行う。 ・ICT利活用授業の実践例の紹介の研修を行う。 ・教員に対して、タブレット・電子黒板・基本ソフトの基本的な操作方法の研修とアドバイスを行う。 ・不具合等の対策を可能な限り素早く行い、円滑な授業運営を支える。	B	本年度は完成年度であり、先生がたのスキルも上がり使用が増加している。新しいことにも率先して取り組んでもらった。電子黒板についてはほとんどの先生方が使用している。学習用PCの利活用についても、教材インストールの不具合、通信環境の不具合、生徒の充電忘れ等多くのトラブルがある中、ほぼ毎授業時間使用する先生も数人おり、十分な利活用が行われている。生徒も学習用PCの利用に慣れてきており、トラブルを逐一教諭に報告していたのが、自分で再起動してみる等適切な対処をするようになった。	教科担当者については学習用PCの利活用についてはスムーズに行えるようになっている。ICTサポータやヘルプデスクの存在は大きく、来年度も継続して来ていただきたい。来年度は、全校生徒が学習用PCもち2年目となる。今年度以上に積極的なサポートをしていくことで十分な利用が期待できる。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体つくり	健康の自己管理能力向上の推進	保健指導を充実させ、受診率の向上を図る。	・健康調査を実施し、生活習慣、健康課題への意識・行動の実態を把握する。 ・歯科・視力に関する保健指導を実施し、自己管理への意識付けを行う。	A	一学期の健康診断の結果を受け，保護者面談を通して，生徒の自己管理の意識を向上させた。インフルエンザの流行が始まる前から担任または生徒保健委員と協力し，生徒の健康状態の把握に努めた。	健康診断後の受診率の向上について引き続き継続して指導をしていく。

4　本年度のまとめ・次年度の取組

今年度の学校経営ビジョンとして、「ものづくりによる人づくり」「部活動による人づくり」を柱として生徒が入学して良かった、保護者が入学させて良かったと思う学校づくりを目ざしてきた。具体的には、①全ての生徒が安心して学習でき、安全に生活できる学校。②保護者や地域との協力・連携を深め、信頼される学校。③生徒は真剣な態度で授業を受け、教師はよくわかる授業をする学校。④生徒に夢を持たせ、夢を育み、夢の実現に向けて歩ませ、全力でサポートする学校。⑤必要な常識、規範意識（道徳心）、基礎的な知識・技術を身につけさせる学校。を目標に取り組んだ。基本的生活習慣の向上や学習意欲の向上にむけ、校独自の取組の「ヒューマントレーニング」、「ものづくりによる地域貢献」等に取り組んできた。その結果、皆勤者の数も大幅に増加し、学校はおちついている。建築科の模型製作やベンチの寄贈、電気科の特別支援学校との連携で製作した訓練用電気スイッチ、土木科の近隣中学校での池の修復、機械科のゴミステーションの製作等ではPHの更新を素早く行うなど、学校の取組をしっかりPRすることができた。進路については100%の達成であり、1次内定率も昨年度に比べ上昇した。しかし、自分を表現できない生徒も多く、就職試験を複数回受験した生徒もいた。進路意識の高揚とともに、基礎学力の定着とあわせ、自己表現力を身につけさせなければならない。ボランティア活動については、生徒会を中心として、地道な取り組みを行うことが出来た。部活動も徐々にではあるが活性化しており、学校の活性化につながっている。部員の定着率を高める努力を行い、さらなる活性化に繋げていきたい。